

日本産業衛生学会九州地方会ニュース

産衛九州

発行所 日本産業衛生学会九州地方会
〒870-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
産業医科大学 医学部 衛生学講座
TEL (093) 691-7429
FAX (093) 691-9341

発行責任者：地方会長 川本俊弘

(題字：倉恒匡徳筆)

巻頭言

リーダーを養成する

産業医大 産業生態科学研究所 労働衛生工学 明星敏彦



天性の親分肌であった前任の当研究室教授（前九州地方会長）に比べ、天性の子分肌の私が書くのは甚だ気が引けるのであるが、この国にはリーダーが、リーダーシップを持つ人が絶対的に不足していると思う。教育が大きな原因であるならば、大学に奉職する身としては考えなくてはならない。試験

に勝ち残って大学を卒業し、分野によっては国家資格もあって、社会に出て、さてリーダーとして足りないものはなにか。2つのことが思い浮かぶ。現場にも試験のような正解はあるか、卒業までうまくいった一人で本に向かい試験に向かう能力と現場で仕事に向かう能力は同じか。

学生に対して試験を作る立場では、正解があるという前提で試験をしている。自分の授業の試験であれば、採点時にかなり軌道修正できるのでアバウトでもやれるが、入学試験や資格試験であれば間違いがあると社会から相当のバッシングを受けるので神経を使って問の文言の妥当性を吟味することになる。しかし、実社会ではそもそも正解がわからないことが多く、どの判断であっても間違いを含み、そのリスクを冒して実行していると思う。反対に正解がわかるまで実行しないという判断もあるが、これでは判断していないことと同じである。「Japanization」という英単語は、情けない話であるが「先送り」という意味で、試験に正解があるように現実にも正解があると思う我々は、大きく変化する時代に全く不適應で、表紙を代えるだけで問題の先送りを繰り返している。そのような中で学生に、また卒業後に学ぶ若者に、学生実習でも研究室の研究の一部でもらせてみて、教科書どおりにはいけない、教員のアドバイスも当てにならないことを知ってもらうことは意味があると思って、うまくいかない結果を受け入れている。学生実習では、意図的に本人の適正は無視してリーダーとサブリーダーを指名し、全体を見渡す仕事を振っている。短い実習

時間ではリーダーとしてうまくいかないことも多いが、いつもリーダーを指名する始めのところでクラスが盛り上がる。ランダムに指名しているので、グループによっては、「彼／彼女なら当然」というつぶやき（優等生かな：私）もあれば、「えーどうする」という叫び（ちゃらいやつかな：私）もでて、このような経験に飢えているのではと思う。リーダーシップはOJTから生まれるのであって、リーダーシップがあるからリーダーを任せるのではない。忘年会の企画運営のように会社にとってリスクの少ない仕事からとにかく任せて鍛えるという最近読んだ本の考えに賛同する。

現場では、2人以上であればどちらかがリードしないと前に進まない。このとき親分肌と子分肌であれば揉め事は少ないが、子分肌は自分で考えなくなり、判断を親分肌に委ねる。子分一人であれば問題ないが、考えない子分100人と何事かをなさなければいけないとすれば親分も苦痛であろう。自分がその場のリーダーでなくても、このチームはなにをしなければいけないか、我々のリーダーはどう進めようとしているのか、自分がリーダーであればその判断をするかを常に心の内でシミュレーションをすることは重要で、さらに自分の考えを提案しつつリーダーの方針に協力することでよいチームメンバーとなれるし、リーダーシップの研修にもなる。学生実習の経験でも「えーどうする」といわれたリーダーのチームは、メンバーがこれは大変と思うのか意外にチーム全体として回るので、まるで和田竜の小説「のぼうの城」の「のぼう様、成田長親」を見るようで面白い。

自分一人でなさなければいけない仕事であっても他の人が絡む。仕事の裁量権の有無とメンタルヘルスは関係があることがいわれているが、自らの意思でやっているか、やらされているかが裁量権の根本ではないかと思う。したがって自分一人でする仕事に対しても自らの仕事に対するリーダーシップを養成する必要があるが、その能力を育てる当方にはリーダーシップはなくて単なる「でくのぼう」である方がいいのではないかと思う昨今である。

九州地方会事務局の紹介

日本産業衛生学会 九州地方会 田中政幸
(公財)福岡労働衛生研究所)

現在、日本産業衛生学会九州地方会にて事務局をやっております。(公財)福岡労働衛生研究所の田中と申します。2012年6月まで産業医科大学産業衛生学講座(旧衛生学講座)に在籍していたご縁にて、2011年より事務局を務めさせていただいております。さて、事務局と申しましてピンとこない方が殆どかと思えます。このような機会を頂きましたので、簡単に紹介をさせていただきたいと思えます。

事務局としての大きな仕事としては・事業計画・予算編成・理事会の開催(年2回)・地方会総会の開催等があげられます。事業計画、予算編成に関しては、学会の年度は3月～2月で運営されており、例年1～2月頃に、前年度の実績を参考に、さらに第2回理事会(例年12月ごろ開催)で上がった事業案などを組み込み、最終的に計画を立てていきます。この山を越えた後に待っているのは、地方会学会の際に開催される「地方会総会」および「第1回理事会」となります。総会に関しましては、その案内状作成に始まり、出欠・委任状の確認、そして当日の資料作成等を行っております。また、理事会に関しましては、各理事の出欠の確認に始まり、議題の確認、資料の作成等を行います。いずれも、終了後には「議事録作成」を行っております。第2回の理事会も同様です。

研究紹介・学会報告

第46回日本産業衛生学会中小企業 安全衛生研究会全国大会を開催して

茅 嶋 康太郎

(産業医科大学 産業医実務研修センター)

平成24年12月8日に、第46回日本産業衛生学会中小企業安全衛生研究会全国大会を、福岡県医師会館にて開催いたしました。当日は全国から89名の参加者が集いました。一般演題は8題で、小規模事業場における健康づくり(飲酒習慣の認識調査)、メンタルヘルス対策、騒音・振動暴露対策、産業保健職の面談の効果、職場における心肺停止例の対処(事例報告)、衛生管理者の関与した生活習慣改善プログラム、嘱託産業医サービス提供の実態報告などバラエティーに富んだ内容となりました。教育講演は、産業医実務研修センターの森センター長にお願いし、産業医科大学が福島原発の支援に携わった経験を踏まえ、建設業などの下請け企業の健康管理の経験について話をいただきました。産業医科大学が福島原発の支援に関わるようになった経緯から始まり、こういった災害時における産業保

さらには、理事会が終わった後には、この「産衛九州」の中にある「理事会報告」の原稿の作成を行います。また年度末には作成した事業報告・決算・次年度予算を学会本部に提出する、以上が事務局としての仕事となっております。

ところで、会員の皆様は地方会収入はどこから得ているかご存知でしょうか? 実は皆様が納入された産衛学会の会費のうち、ある一定の時期までに会費を支払った方の数に応じて、本部から助成金を受けとり運営をしております。すなわち、一定の時期までに会費を支払った方が少ないと地方会の収入も少なくなってしまうことになります。そこで皆様をお願いしたいのが一点ございます。是非とも会費は早めにお支払いいただきたいと思います。早めにお支払いいただくと、その分、地方会としましては助成金収入が増えますので非常に助かります。是非ともよろしくお願い申し上げます。

以上、簡単ではございますが、地方会事務局のご紹介をさせていただきました。九州地方会の運営等に関し、ご意見・ご要望等ございましたら、事務局(産業医科大学産業衛生学講座内)宛てにご連絡を頂けると幸いです。今後、地方会運営にご協力賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

健上の課題についてご講演いただきました。初期に発生する産業保健ニーズに迅速にかつ的確に対応すること、複合リスクが発生することを見越しての対応、従来の安全衛生の枠組みではカバーされにくい労働者への対応が必要であるとのことでした。

またシンポジウムでは、すべての中小企業にいかに関業保健サービスを提供するかをテーマに、労働衛生機関(医師、看護師、作業環境測定士)、公的機関としての地産保、そして特に小規模・零細事業所のもっとも身近にいて事業者の相談相手になってくれるリソースとして最近注目されている社会保険労務士、それぞれの立場で、多職種によりどのように中小企業を支えていくかについてご発表いただきました。また、産業保健の対応が十分ではないと思われる地方公務員の世界における良好事例についてもご発表いただきました。すべての先生方の熱いご発表により、パネルディスカッションをする時間が無くなりましたが、会場からも多くの質問が出て盛り上がり、予定の時刻を超えて討議が行われました(懇親会開始ぎりぎりまで時間延長)。

最後になりますが、今研究会の開催にあたり、日本産業衛生学会九州地方会、産業技術部会にはご後援いただきました。ご支援を賜り誠にありがとうございました。

日本産業衛生学会専門医紹介

産業衛生専門医としてのご挨拶

岡 原 伸太郎

(産業医実務研修センター 助教)



読者の皆様、はじめまして。産業医科大学産業医実務研修センターの岡原伸太郎と申します。平成24年度の専門医試験に合格し、日本産業衛生学会認定の産業衛生専門医になることができました。本誌において専門医紹介の機会をいただきましたので、ご挨拶を兼ねて自己紹介と専門医としての今後の抱負を書かせて頂きます。

私は産業医科大学を2006年に卒業し、その後4年間の同大学における産業医学専門修練過程を修了しました。2010年から2年間は北九州にある企業外労働衛生機関において嘱託産業医として中小規模事業場を中心に北部九州の産業保健の向上に努めてまいりました。企業外労働衛生機関に在職中は嘱託産業医として計35ヵ所の事業場（合計約4500人の従業員）を担当し、多種多様な労働現場（鉄鋼、化学、自動車関連、半導体関連、食品などの製造業から建設業、金融業、人材派遣業、公務など）を診てきました。九州の産業は1980年代までは鉄鋼、造船、化学、セメントなど重厚長大産業が主体でしたが、アジア経済の成長発展とともに近年では半導体関連や自動車関連の製造業の立地が進み、シリコンアイランドやカーアイランドと称されるようになっていきます。九州の過去から現在を支えている様々な業種の事業場に関わったことを嬉しく思います。

私が嘱託産業医として多種多様な事業場で活動するうえで、産業医学の幅広い専門的な知識はもちろん必要とされますが、何より専門的な知識を個々の事業場や労働者の多種多様な特性に合わせて『実践的、効果的』で実現可能な形に加工する技能が必要とされるように感じます。急速に変化し多様化していく社会において、この技能はさらに重要性を増していくものではないでしょうか。産業衛生専門医として、今後も知識や技能の向上のために、個々の事業場や労働者について労働安全衛生や健康の側面のみならず企業活動や企業文化も含めて包括的に理解するように心がけて参ります。

2012年4月からは現職の産業医実務研修センター助教に着任し、産業医実務に関わる研究・教育活動に携わっております。私自身はまだ不勉強な点も多いのですが、研究や教育を通じて多くの諸先生方と一緒に仕事をさせていただく機会が広がり、勉強させていただいております。今後はこれまでの産業医経験も活かし、産業衛生専門医として産業医実務だけではなく、教育研修や研究活動にも力を入れ、産業医学の発展に精進して参りたいと存じます。皆様からのご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

社会に役立つ専門医を目指して

増 井 太 朗

(大分キャノン株式会社本社産業医)



みなさま、はじめまして。

大分キャノン株式会社本社産業医の増井太朗と申します。

さて、私事ですがこのたび、平成24年度の日本産業衛生学会専門医資格認定試験に合格することができましたので、ご報告方々ご挨拶させていただきます。

まずは、簡単ですが自己紹介をさせていただきます。

広島生まれの長崎育ち。1999年に産業医科大学を卒業いたしました。

その後は、卒後修練コースⅡにすすみ、当時、呼吸器内科、城戸優光教授のご指導のもとで、研修医、呼吸器修練医として勉強させていただきました。

特に、霧ヶ丘つだ病院では津田徹院長先生ご指導の下、慢性呼吸器疾患の患者さんを中心に、プライマリケアから急性期、終末期、在宅医療等、様々な日常診療のエッセンスを勉強させていただきました。その幅広い症例を経験する中で、予防の大切さをあらためて実感する事になり、諸先生方のご支援のもと、産業医の道へと入り込みました。

産業医としては、当時産業医実務研修センターで講師をされていた内田和彦先生のご指導のもと、三菱電機長崎製作所や別府郵政健康管理センター所長を経て、現在に至っております。

ある日、部品接着工程を巡視した時の事。日頃はきちんと保護具を着用して作業しているおばちゃんですが、作業終了後にふと見ると、何か液体の入った容器に手指をつけて汚れを落としていました。「何をしていますのですか？」と聞くと「指についたボンドを落としてるの！」「その液体は何ですか？」「トルエンだよ～」「えっ！？（どうする！？そこで怒るのか…笑うのか…何と答える…）」こんな作業者と会えるのはとても楽しいです。

こんな事もありました。体調不良を理由に無断欠勤を繰り返す部下に対する面談を依頼されました。「先生。最近、何回も目が覚めて、朝も3時頃目が覚めます。体がだるくて寝てしまい、休暇の連絡ができません。同じ班の先輩Bが、嫌がらせをしたり暴言を吐きます。つらいです。」心療内科を紹介しそれなりの診断で投薬がなされ、職場の調査では、確かに気性の荒いBさんは違う班になりました。ある日、職場長が来てこんな一言。「先生。実は例の彼。どうも詐病だったようで…申し訳ありません」「ん？！」

「同じ班の友人に「産業医に相談すると、きついといえれば休めるし、うるさい先輩もどけてくれるから良いよ」と話してるらしいんです。厳しく指導しておきます！」「（がっくり）そうですか。（産業医としてやるべき事をやるだけだな…）」

産業医は、その“人”を集団の一員として診て、また一

方でその“人”を通して組織を診る。いつも性善説と性悪説の間で、或は、個人と集団の間で葛藤します。独立性を保ちつつ全体最適を図ることではいかに益になれるのか。様々な人間が集う職場集団の中にいる医師として、いつも自問自答しています。かけだし専門医としてあらためて精進して参りたいと考えております。

最後になりましたが、三角順一先生、有田眞先生、前呼吸器内科教授の城戸優光先生、現教授の迎寛先生、津田徹先生、医局長はじめ諸先生方、東敏明先生、内田和彦先生、実務研修センターの諸先生方、進路指導部の諸先生方、その他多くの先生方に、ご指導やご助言、ご支援をいただきました。

この場をおかりいたしまして、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

また、今後ともご指導、ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

部 会 報 告

産業歯科保健部会報告

産業歯科保健部会幹事 山 本 良 子
(財)日本予防医学協会九州センター)

去る11月東京工科大学において、第22回産業医・産業看護全国協議会が開催されました。今回は各部会から演者を選出した合同企画のシンポジウムとなり、様々な立場や視点からの発表は大変有意義なものでした。メインシンポジウムでは、口腔保健支援活動について白田千代子先生(東京医科歯科大学大学院教授)よりご講演いただきました。有事の際には、命の糧である飲食に制限があるため、口腔状況が悪く食べることが困難であった方は、健康状況に影響がでているようです。被災地は元々むし歯の多い地域で、子ども達は支援物資のお菓子やジュースが無制限に与えられ今後の更なる口腔状況の悪化が心配されているそうです。また歯科救急処置が必要であった方も多く、平時から口の健康を保つことの重要性和、今後も継続的な口腔保健支援が必要であると提言されました。

シンポジウム3では、海外勤務者の健康危機管理として、歯科問題と対策について森智恵子先生(日立製作所健康管理センター歯科医長)にご講演いただきました。海外勤務者の歯科医療費は高く、歯科問題で困ったことがあった方は8割近くもいることから重要な課題であることは間違いないようです。近年は駐在から長期出張に変化していること、先進国から新興国へシフトしてきていること等派遣先の多様化に対応するためにも、平時からのお口の予防対策や渡航前の歯科治療の完了が重要であることが提言されました。

その一方別の視点から、震災後の身元確認において証明された通り、歯科記録は非常時には個人IDとしての価値を併せ持つことをお話いただきました。

来年の愛媛県松山市で開催される第86回産業衛生学会総会では、エイジマネジメント研究会と合同企画によるシ

ンポジウム「これからの健康科学」として、産医大人間工学の樋口善行先生をはじめ、各方面でご活躍の他職種の講師を迎えて、産業保健におけるエイジマネジメントストラテジーについてご講演いただきます。

産業歯科保健フォーラム「健康寿命を延ばす産業保健」では、食生活・食行動を切り口にメタボリックシンドローム対策を議論して参ります。

H25年度産業歯科保健部会前期研修会では、テーマ「ヘルスリテラシーを活かした新たな健康支援」として、順天堂大学の福田洋先生をはじめ、多彩な講師による多面的な視点から健康支援に迫ります。他部会からのご参加もお待ちしております。

個人的には「坂の上の雲」を読み返して、次の総会に臨もうと思います。楽しみです。

産業看護部会活動報告

産業看護部会副部長 住 徳 松 子
(アサヒビール㈱ 博多工場)

平成24年の産業看護部会の活動は、7月の九州地方学会の準備運営を中心に年初から取り組んだため、例年9月に開催しておりました産業看護職継続教育システム実力アップコースを休止させていただきました。定例の産業看護研究会については産業看護部会総会と同日の平成25年1月19日(土)、福岡交通センター会議室において開催いたしました。詳細につきましては次号にてご報告いたします。

さて、学会が公益化に向けて改革を行っていることを受けて、九州地方会産業看護部会も徐々にそのあり方について整合性が取れるよう調整して参りました。具体的には、会員資格と会計の本部ルールとの一本化です。総会の際には、学会の法人改革に伴う会則および会計の変更等についてのご報告をさせていただきました。

九州地方会産業看護部会は、日本産業衛生学会の正会員以外の会員を長く受け入れてきた歴史があります。産業看護職は所属する事業所所在地での活動となるため、学会活動も地元九州が中心となる場合が多く、地方会独自企画の研修会等を充実させることが望まれた結果だと思われます。

しかし、平成25年度以降の活動は、原則として日本産業衛生学会会員で産業看護部会に入会した方の中で、九州地区に勤務されている方を対象に行って参ります。幸いなことに九州地区は産業看護部会会員も多いため、産業看護部会本部からの助成金が増額されたこともあり、従来に遜色ない活動ができる見込みです。

また、他の看護系団体との協力も積極的に行いたいと考えております。福岡県看護協会については、すでに保健指導ミーティングなどの研修会等、ここ数年協力体制が構築できております。前記しました産業看護研究会についても、午後から同会場において、日本産業保健師会主催の研修会が始めて九州地区で開催されることもあり、内容、講師などの企画段階から協力しております。もちろん、他組織との協力については活動目的など考慮することも必要ですが、研修会運営の効率化と産業看護職の研鑽に役立つためには、

今後も様々な組織との協力を模索することが必要かと考えます。

東京で開催された第22回産業医・産業看護全国協議会の産業看護部会企画では、国際交流についてのシンポジウムが開催され、産業看護職もこれからはグローバルな活動を視野に入れるべきだとの報告がありました。2014年9月に福岡で開催予定の ACOH (Asian Conference of Occupational Health) では、アジア諸国の産業看護職と交流する好機となると期待しております。多くの部会員の参加をお待ちしております。

今後も、九州の産業看護職の活動の場が尚一層広がるよう、役員一同尽力して参ります。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

産業衛生技術部会の活動報告

産業衛生技術部会幹事 伊藤 昭 好
(産業医科大学 産業保健学部 環境マネジメント学科)

産業衛生技術部会は、毎年秋に全国レベルの大会を開催しています。今年は、東京工科大学において開催された産業医・産業看護全国協議会の会期中に同じ会場で11月23日(金)午後に、第21回産業衛生技術部会大会を開催しました。メインテーマは「改めて腰痛を考えよう」と題して、産業衛生技術シンポジウムが企画されました。演者と演題は次の通りです。埴田和史先生(滋賀医科大学)に「福祉・医療現場における作業関連性運動器障害の現状と課題」、勝平純司先生(国際医療福祉大学)に「腰部負担軽減を目的とした継手付き体幹装具 Trunk Solution の開発と評価」、齋藤昭彦先生(杏林大学)に、「腰痛に対する新しいエクササイズ」についてお話いただきました。産業医・産業看護全国協議会と同時開催であったためか、例年より多くの参加者を得て、多岐にわたり活発に討論が進められました(写真参照)。

翌日の24日(土)午前中にも、産業衛生技術講演会を開催し、橋本晴男先生(EMGマーケティング)に、「実用上のガイドとなる個人ばく露測定の方法の検討について」、熊谷信二先生(産業医科大学)に、「有機溶剤職場における胆管癌発症について」と題して講演をしていただきました。橋本先生は、産業衛生技術部会に設置された「個人ばく露測定に関する委員会」の委員長を務めておられますが、これまでの行政の動きを総括され、今後技術面で審議が必



要な事項を整理し、委員会の目的を明確に論じておられました。大前和幸理事長もフロアから発言され、学会の重要な役割だと高く評価しておられました。

また、12月8日(土)に福岡で開催された中小企業安全衛生研究会第46回全国集会を共催しました。午後のシンポジウム「多職種で中小企業をどう支えていくか」には、シンポジストの一人として、地元若手の作業環境測定士である市後崎隆則氏(西日本産業衛生会)が日常の測定業務の中から進めている具体的な環境改善事例を報告され、職場をその気にさせていくことの重要性和産業衛生技術専門職の役割に気づかされる良い機会となりました。なお当日は80名を超える参加者があり、盛会となりました。

学 会 案 内

平成25年度日本産業衛生学会 九州地方会のお知らせ(第2報)

会 期 平成25年7月5日(金)・6日(土)

会 場 宮崎市民プラザ(オルブライトホール)

〒880-0001

宮崎市橘通西1丁目1番2号

TEL 0985-24-1008

学会長 黒田嘉紀

(宮崎大学医学部社会医学講座公衆衛生学分野)

事務局長 竹内昌平

(宮崎大学医学部社会医学講座公衆衛生学分野)

事務局: 889-1692

宮崎県宮崎市清武町木原5200

宮崎大学医学部社会医学講座公衆衛生学分野

TEL 0985-85-0874

日程

1日目 7月5日(金)

- ・理事会
- ・一般講演
- ・教育講演

演題 新型うつ病にどう対処すべきか

演者 大分大学医学部精神神経医学講座

教授 寺尾 岳

- ・懇親会 会場: シーガイア

2日目 7月6日(土)

- ・一般講演
- ・特別講演

演題 研究倫理をめぐる最近の動向

一疫学研究を含めた臨床研究の倫理的ジレンマ

演者 宮崎大学医学部社会医学講座生命・医療倫理学分野

教授 板井孝太郎

- ・総会
- ・自由集会

会 費 参加費 4000円(予定) 懇親会費 5000円(予定)

一般演題募集 3月末を予定していますので、たくさんの応募をお待ちしております。

理事会報告

平成24年度
第2回九州地方会理事会報告

平成24年度第2回理事会が、平成25年1月26日（土）14:00～16:00にJ R博多シティ小会議室（G+H）にて開催されました。

主な議題は以下の通りです。

- 1) 平成24年度第1回理事会議事録要旨について
- 2) 平成24年度事業・決算中間報告について
- 3) 平成25年度事業計画・予算案について
- 4) 平成25年度地方会学会の開催について
- 5) 平成26年度地方会学会の開催地について
- 6) 九州地方会選挙結果について
- 7) 第21回産業医・産業看護全国協議会について
- 8) 産業医・産業看護若手育成特別助成金について
- 9) 名誉会員、功労賞 候補者について
- 10) その他

平成25年度から平成26年度任期の
役員選挙結果について

九州地方会選挙管理委員会 委員長 市場 正 良
事務局長 廣 尚 典

学会役員選挙を、9月末（地方会役員、代議員）および10月末（本部理事）に行いました。皆様のご参加ありがとうございました。結果を報告致します。

地 方 会 長 加藤貴彦

本 部 理 事 住徳松子、東 敏昭、堀江正知

地方会理事 石竹達也、住徳松子、東 敏昭、堀江正知、
森 晃爾、大和 浩、市場正良、青柳 潔、垣内紀亮、
大森久光、黒田嘉紀、堀内正久、青木一雄

代議員（福岡）池田智子、石竹達也、泉 博之、伊藤昭好、
井上彰臣、井上仁郎、上野 晋、江口泰正、大神 明、
太田雅規、織田 進、梶木繁之、門田美紀子、茅嶋康太
郎、河井一明、川波祥子、川本俊弘、喜多村紘子、熊谷
信二、柴戸美奈、住徳松子、高橋 謙、田中勇武、田中
雅人、中尾由美、中谷淳子、永田智久、西田和子、八谷
百合子、日笠理恵、東 敏昭、日野義之、廣 尚典、藤
代一也、保利 一、堀江正知、松田晋哉、真船浩介、明
星敏彦、森 晃爾、森本泰夫、大和 浩

（佐賀）有吉浩美、市場正良、彌富美奈子

（長崎）青柳 潔、長岡清子

（大分）青野裕士、佐土原浩子

（熊本）大森久光、加藤貴彦、寶珠山 務

（宮崎）黒田嘉紀

（鹿児島）河村 裕、堀内正久

（沖縄）青木一雄、平山良克、山城愛子

（海外）Yangho Kim

以上59名

編

集

後

記

私事で恐縮だが、年が明け、今年の4月で産業保健師として働き始めて30年になる。

30年前、入社したての新米保健師の私には「驚き」に思うことがあった。それは、先輩保健師達が、従業員一人ひとりの「そんなことまで？」と思うようなことを把握していて、個別性の高い保健指導を行っていたことだった。現病歴、既往歴、業務内容はもちろんのこと、家族構成、社宅か持ち家か、趣味、出身校、出身地などなど。

だが、先輩保健師達と一緒に仕事をしていくと、その「驚き」は「納得」に変わった。先輩保健師達は健康診断や事業所巡回などあらゆる機会に、一人ひとりの目を見て挨拶し、コミュニケーションを取りながら血圧を測ったりしていた。このコミュニケーションの中から保健指導に役立つ貴重な情報を得ていたのだ。と同時に従業員との信頼関係も構築していたのだ。

昨今、パソコンの普及により職場内のコミュニケーションが減り、目の前にいる上長や同僚にメールで用件を済ませようとする者がいる。保健師への相談もメールする従業員がいる。しかし保健師である私は、できるだけフェイスツウフェイスのコミュニケーションを心がけ、「話しを聞いてもらってスッキリした」と心の琴線に触れる面接をしながら、従業員の健康を支援していきたいと思う。

保健師である私だからできることを、30年目の今年も精一杯やっていきたいと強く感じた年頭だった。

（佐土原）

九州地方会ニュース「産衛九州」

発行 平成25年2月1日

編集正責任者：加藤 貴彦（熊本大学）

編集副責任者：市場 正良（佐賀大学）

編 集 委 員：青木 一雄（琉球大学）

青柳 潔（長崎大学）

堀内 正久（鹿児島大学）

石竹 達也（久留米大学）

黒田 嘉紀（宮崎大学）

佐土原浩子（九州電力 大分支店）

住徳 松子（アサヒビール(株)博多工場）

大和 浩（産業医科大学）

（五十音順）

（編集事務局連絡先）

〒860-8556 熊本市中央区本荘1-1-1

熊本大学大学院生命科学研究部

公衆衛生・医療科学分野（担当：西村）

TEL(096)-373-5112 FAX(096)-373-5113

E-mail: k-public@kumamoto-u.ac.jp